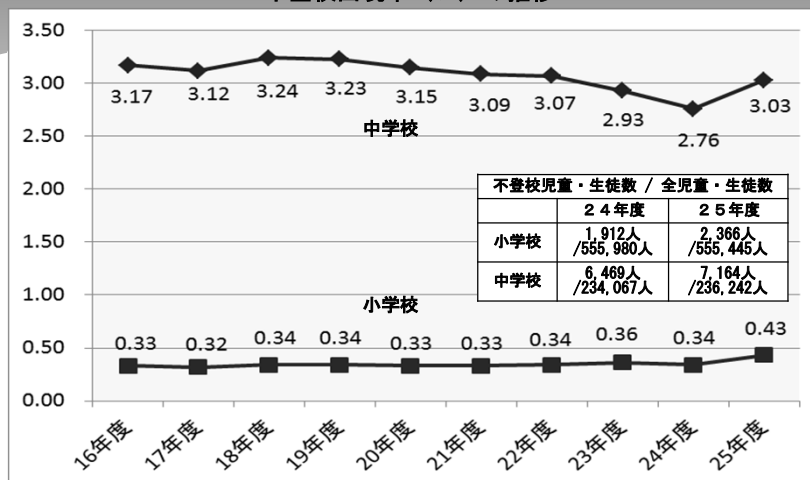


# 東京都における不登校対策

東京都教育監 高野 敬三

## I 小学校・中学校における不登校の状況について

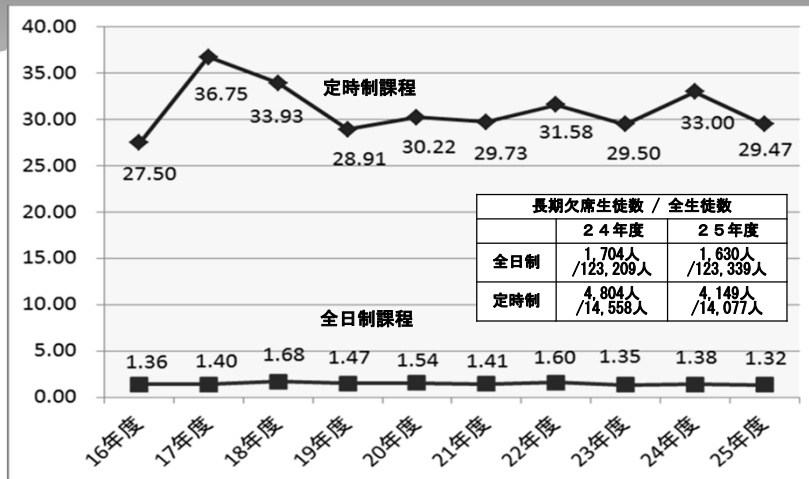
不登校出現率 (%) の推移



文部科学省「児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」  
における東京都立学校の状況

## Ⅱ 都立高等学校における長期欠席の状況について

長期欠席出現率（％）の推移



文部科学省「児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」  
における東京都立学校の状況

## Ⅲ 東京都における不登校対策

### 1 個々の状況に応じた未然防止・早期対応

#### (1) 中学校への不登校加配教員の配置 (平成5年度から)

- ・不登校の生徒数が多い学校などに対して、学校からの申請に基づき、都教育委員会として、不登校加配教員を配置
- ・加配教員が、不登校の未然防止、早期対応などの取組の中心となり、組織的な指導体制を確立
- ・平成26年度は86校に配置

#### (2) 「ふれあい月間」における取組の点検と改善 (平成7年度から)

- ・都内全公立学校で、学校の取組を見直し、不登校の未然防止や早期対応等の充実を図るため、重点取組月間を設置(6月・11月・2月)
- ・スクールカウンセラーを講師とした校内研修会、事例検討会等、各学校で工夫した取組を実施

### Ⅲ 東京都における不登校対策

#### 1 個々の状況に応じた未然防止・早期対応

#### (3) 個別適応計画書の作成による指導 (平成20年度から)

- ・都教育委員会が様式を提示
- ・不登校の児童・生徒一人一人に対し、登校に向けた学校内での組織的な取組や関係機関と連携した支援を進めるため、小・中学校で活用
- ・学級担任が概略を作成、定期的な支援メンバー会議で、個々の状況に応じた適応計画や支援方法を決定
- ・登校に向けた目標を設定、学期ごとに見直し
- ・目標を踏まえ、月ごとの取組内容と成果を記入
- ・保護者からの要望、関係機関からの情報、児童・生徒の変容、次年度への引き継ぎ内容等を記入

「個別適応計画書」記入例①【東京 一 君の例(抜粋)】

名前		性別		学年別欠席日数												
東京 一		男		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2					
				3	10	12	25	34	60	35						
月別日数	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	家庭との連絡状況	
	欠席	15	18	20	20											<input type="checkbox"/> 連絡がとれる <input type="checkbox"/> 連絡がとれない
	別室登校	0	0	0	0											
	早退															
	遅刻															
通学指導教室		0	0	0	0											
不登校となった直接のきっかけ										不登校が継続している理由						
<b>【学校生活に起因】</b> <input type="checkbox"/> 友人関係をめぐる問題・・・いじめ、けんか等 <input type="checkbox"/> 教師との関係をめぐる問題・・・強い叱責、注意等 <input type="checkbox"/> 学業の不振・・・授業が分からない、試験が難しい等 <input type="checkbox"/> クラブ活動、部活動への不適応 <input type="checkbox"/> 学校のさまり等をめぐる問題 <input type="checkbox"/> 入学、転編入学、進級時の不適応										<b>【家庭生活に起因】</b> <input type="checkbox"/> 家庭の生活環境の急激な変化・・・親の単身赴任等 <input type="checkbox"/> 親子関係をめぐる問題・・・叱責、反発等 <input type="checkbox"/> 家庭内の不和・・・両親の不和、祖父母との不和等						
<b>【本人の問題に起因】</b> <input type="checkbox"/> 病気による欠席 <input checked="" type="checkbox"/> その他本人にかかわる問題・・・過度の不安や緊張、無気力等で特に直接のきっかけがみあたらないもの										<b>いじめ</b> <input type="checkbox"/> いじめを除く児童・生徒との関係 <input type="checkbox"/> 教職員との関係 <input checked="" type="checkbox"/> その他生活指導上の影響 学校生活上の影響 <input type="checkbox"/> あそび・非行 <input type="checkbox"/> 無気力 <input type="checkbox"/> 不安などの情緒的混乱 <input type="checkbox"/> 意図的な拒否 <input type="checkbox"/> 複合 <input type="checkbox"/> その他						
<b>備考</b> 小学校5年から欠席日数が多くなり、中学進学時には登校していたが、後半になり登校できなくなった。										<b>状況</b> <input type="checkbox"/> 担任と本人が話ができない状況である。 <input checked="" type="checkbox"/> 保護者も学校復帰に向けて、あきらめている様子である。						

「個別適応計画書」記入例②【東京一君の例(抜粋)】

登校に向けて必要と考えられること(A:短期 B:中期 C:長期)		
学級の修復	周囲の児童・生徒	教職員
いじめの根絶	B 友人関係の把握	受入体制の確立
授業の改善	他児童・生徒の理解	教員との関係修復
受入体制(雰囲気づくり)	C 対人関係能力の向上	児童・生徒理解の促進
C 人間関係づくり	関係児童・生徒との修復	B 教育相談的なかわり
係り活動の役割分担		
席替え・班替え		
学校(規則・行事・部活)	学習	本人の生活
登校・下校時刻	B 学習意欲の喚起・伸長	A 生活リズムの修復
B 保健室登校	学習習慣の確立	B 活動意欲の向上
B 別室登校	不得意教科等の補習	B 外出
行事参加形態の検討	A 欠席中の教科補習	
部活・クラブ参加形態の検討	進路指導	
家庭環境	専門機関の協力	その他
親子関係の改善	福祉面での支援	
兄弟姉妹関係の改善	A 心理面での支援	
祖父母等との関係改善	医療面での支援	
学校と保護者との関係改善	警察関係の支援	
	適応指導教室の利用	
	教育相談室(所)の利用	

「個別適応計画書」記入例③【東京一君の例(抜粋)】

登校に向けた目標		取組項目の優先順位 (登校に向けて必要と考えられることからの転記)								
4月 ↓ 8月	○本人と担任が話ができるようにする。 ○登校復帰に向けて、保護者の意欲を喚起させる、生活リズムを整えるよう協力を得る。	A	①心理面での支援 ②生活リズムの修復 ③欠席中の教科補習							
			9月 ↓ 12月	○別室登校ができるようにする。 ○欠席時の補習プログラムを用意する。	B	①保健室登校、別室登校 ②教育相談的なかわり ③学習意欲の喚起・伸長 ④活動意欲の向上				
支援メンバー		4月～8月				9月～12月		1月～3月		
1月 ↓ 3月			学年	○	保護者		○			
			教育相談担当							
			養護教諭	○		○				
			生活指導担当							
			進路指導担当					○		
スモールグループ				○		○				

「個別適応計画書」記入例④【東京一君の例（抜粋）】

月	メンバー 会議	取 組	記 録
4月	14日	○家庭訪問(週1回) ○欠席時の連絡を必ず行う。	家庭訪問を保護者が好まない。 3回中、本人とは1回話げできた。
5月		○家庭訪問(週1回) ○登校時に迎えに行く。	保護者との連携がとれるようになった。 登校時の迎えは効果なし。
6月	20日	○家庭訪問(学校の様子を伝える) ○欠席時の電話連絡	友達のメッセージは受け取るようになった。
7月		○家庭訪問(友達のメッセージを持っていく) ○欠席時の電話連絡	本人と電話で話ができるようになった。
8月	20日	○本人へ手紙を書く。	手紙の返事がきた。
9月			
10月			
11月			
12月			

### Ⅲ 東京都における不登校対策

#### 2 専門家等と連携した継続的な支援

##### (1) スクールカウンセラーの配置 (平成7年度から順次拡大)

【国の補助事業】

- ・平成25年度より、全公立小・中・高等学校に配置  
(小学校:1295校、中学校629校、高等学校188校、計2112校)
- ・不登校や学校生活への適応、人間関係などの悩みなどに関する児童・生徒への相談に的確に対応
- ・教員の児童・生徒理解や指導に関する助言、事例検討会や校内研修の講師等
- ・「いじめ総合対策」の一環として、全配置校において、小5・中1・高1を対象とした全員面接の実施 ⇒ 不登校の未然防止にも効果  
(平成26年度から)

### Ⅲ 東京都における不登校対策

#### 2 専門家等と連携した継続的な支援

##### (2) スクールソーシャルワーカーの配置 (平成20年度から) 【国・都の補助事業】

- ・スクールソーシャルワーカーを配置する区市町村を支援
- ・社会福祉等の専門的な知識や技術を用いて、児童・生徒が置かれた環境へ働き掛け、関係機関とのネットワーク活用
- ・平成26年度 42区市町村で配置

##### (3) 家庭と子供の支援員の派遣 (平成21年度 登校支援員として開始) 【学校と家庭の連携推進事業 国・都の補助事業】

- ・家庭と子供の支援員を小・中学校に配置する区市町村を支援
- ・支援員と教員が家庭訪問等を行い、児童・生徒や保護者への支援
- ・対応が困難な事例などに対しては、スーパーバイザーが助言
- ・平成26年度 31区市町村で小学校135校、中学校96校に配置

### Ⅲ 東京都における不登校対策

#### 3 東京都教育相談センターによる支援

##### 【青少年リスタートプレイス】(平成17年度から)

進路選択を控えた不登校の中学生、高校中退者等やその保護者に、就学や就労の支援を支援する相談窓口

##### (1) 電話相談・来所相談

- ・児童・生徒や保護者等からの高等学校入学および進路変更等についての相談、情報提供
- ・平成25年度 電話相談:247回、来所相談:333回

##### (2) リスタート登録者支援

- ・継続的な情報提供等の支援希望者に、「進路相談会」、「つどい」の開催案内、都立学校入学選抜の情報等を「リスタート通信」として送付
- ・平成25年度 登録者:159人

### Ⅲ 東京都における不登校対策

#### 3 東京都教育相談センターによる支援

##### (3) 青少年リスタートプレイス「つどい」

- ・登録者の保護者を対象に、学校復帰等に向けて、心理や医療の専門家を交え、講演会やグループミーティング実施
- ・平成25年度 講演会:3回、グループミーティング:6回  
参加者:のべ233人

##### (4) 進路相談会

- ・不登校の中学生、高校中退者と保護者に対して、適切な進路情報の提供と個別相談
- ・平成25年度 5回  
参加者 中学生:612人、高校生相当年齢:88人、その他:20人

### Ⅲ 東京都における不登校対策

#### 4 意欲をもって学び続ける環境づくり

##### (1) 適応指導教室における指導

- ・不登校児童・生徒に対する指導を行うために、区市町村教育委員会が、設置(平成26年度 51区市町村、72教室)
- ・教育センター等学校以外の場所や余裕教室等において学校復帰支援
- ・在籍校との連携により、組織的・計画的に指導
- ・活動内容:教科指導、スポーツ・遊戯、カウンセリング、ソーシャルスキルトレーニング、グループエンカウンター、各種体験活動(調理、ものづくり、飼育・栽培、読書、奉仕、自然体験、社会科見学 等)
- ・平成25年度に指導を受けた児童・生徒数合計  
小学生:277人、中学生:1,366人  
→ 不登校児童・生徒全体の2割程度の通室

### Ⅲ 東京都における不登校対策

#### 4 意欲をもって学び続ける環境づくり

##### (2) 不登校経験のある生徒を受け入れる高等学校

・チャレンジスクール(昼夜間定時制、単位制、総合学科)を5校設置

(六本木高校、大江戸高校、世田谷泉高校、稔ヶ丘高校、桐ヶ丘高校)

平成26年度 一個学年募集定員総計：850人 入学手続き者数総計：873人

→ 入学選抜倍率 1.68倍

・その他の昼夜間定時制課程(午前部・午後部・夜間部の3部、単位制、普通科)の高校を6校設置

(一橋高校、新宿山吹高校、砂川高校 [以上、通信制併設]、浅草高校、荻窪高校、八王子拓真高校)  
※新宿山吹高校は、情報科併設

平成26年度 一個学年募集定員総計：1,270人 入学手続き者数総計：1,279人

→ 入学選抜倍率 1.40倍

### Ⅳ 今後の取組予定

#### 【基本的な考え方】

- ◆ 児童・生徒が、不登校や高校中退に至らないよう「未然防止・早期対応」の取組を徹底
- ◆ 不登校になったり、中退したとしても、児童・生徒が将来「社会的自立」できる支援を推進



#### IV 今後の取組予定

##### (1) 総合的な不登校・中退対策のとりまとめ

- ・小中高を一貫としてとらえた対策
- ・民間教育機関等の取組との連携推進
- ・不登校、中退の実態調査
- ・有識者による検討会で抜本的な対策を検討

##### (2) スクールソーシャルワーカーの配置拡充

- ・区市町村への支援を充実
- ・都立学校における活用を推進(モデル校を巡回するなどの試行実施)

##### (3) キャリア教育の充実と職業的自立意識の醸成

- ・企業等と連携した、社会・職業を実感できる体験的プログラムを充実  
(普通科高校全校)
- ・グループエンカウンターの手法を用いて、人間関係づくりのため外部人材を活用  
(定時制1学年)

御清聴ありがとうございました。